

を中心とした一帯は、豊かな自然と、最先端技術の調和という本町の将来像の象徴です。本町における新しい顔、地域振興の中心地のひとつとして成長させなければなりません。周辺の関係者の皆さまのご理解とご協力を得ながら、新たな時代のまちづくりのための取り組みを進めてまいります。

また、都市計画マスタープランで広域交流拠点と位置付けています。林先地区の一層の機能強化を図るため、中道地内において県道春日井稲沢線へ接続する東西、南北の道路軸を設定するための測量調査及び道路詳細設計を行うってまいります。なお、当該地区は、名古屋市、春日井市との隣接地域となります。事業実施に当たっては、関係自治体及び機関との連携を図りながら実施してまいります。

あわせて、和合地内の町道3号線や流川地内の町道715号線についても改良工事を行います。また、豊山グラウンド西側に隣接する町道3号線については、グラウンド利用者の安全性・利便性を考慮したコミュニティ道路として歩道を含め整備します。

下水道の整備につきましては、東栄、若宮、伊勢山地区において工事を行います。対象となる広さは8・2ヘクタールです。これによって、町全体の43%が供用開始可能な地域となります。並行して、下水道への接続が可能

になった公共施設について、速やかに工事を行ってまいります。

## 目標 2 にぎわいを生み出す 個性豊かなまち

次に「目標2 にぎわいを生み出す 個性豊かなまち」です。

冒頭にも申し上げましたように、民間航空機の生産・整備拠点を誘致するプロジェクトについて、平成二十六年の初めには事業者が決定し、いよいよ本格的にスタートします。航空宇宙産業は、我が国の将来を担



う極めて重要な分野です。本町は、この基礎となるアジアNO.1航空宇宙産業クラスター形成特区の中核をなす地域です。ものづくり日本の技術と魂をかけた事業を、地元自治体として全力をあげて応援してまいります。町外からの来訪者の交通アクセス等の問題について、当の事業所や関係機関とよく研究・調整を重ね、地域振興のみならず、町民の皆さまの本当の元気に繋がっていくような取組みを行ってまいります。

県営名古屋空港の利用者につきましては、順調に増加しております。平成二十五年には年間利用者が50万人を突破する見込みです。航空機の利用助成につきましては、創設から三年が経過しました。現在は補助の利用回数について制限を設けておりませんが、平成二十六年度よりお一人当たりの補助を十回までとする制度変更を行います。より多くの方々に、公平に制度を利用していたくためですので、皆さまのご理解と制度活用をお願い申し上げます。

また、農業につきましても、小牧基地内の豊山用排水路改修工事、金剛、高添、林先にある鋼製ゲートの更新工事を実施するほか、伊勢山・下屋敷を始めとする水路や、ポンプ柵などの維持工事を適切に行い、用水の安定供給に努めてまいります。

航空館boonについては、展示物や施設の補修や整備も適宜行い、楽しく、快適な空間を維持してまいります。

## 目標 3 安全・安心で住みやすさを 実感できるまち

「目標3 安全・安心で住みやすさを 実感できるまち」です。

東日本大震災の発生から間もなく三年となります。いまだに27万人の方が故郷を離れて、避難生活を強いられています。被災地域の復旧・復興は、まだ端緒にいたばかりです。二月に締結した宮城県東松島市との災害協定

